

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

1 目指す姿と数値目標

企業理念

北海道寒地農業の振興と国内甘味資源自給率確保を掲げ、安全で高品質の砂糖の安定的供給を主たる目標とする。

営業利益
30億円

ROE
5%以上

政策支援数量
55万トン

2 中長期の経営戦略

1. てん菜産業への飛躍

てん菜糖業からてん菜産業への転換。健康食材・食品以外の素材開発など新規製品開発を推進。

2. 飼料事業の拡大

独自素材DFAIIIの海外展開、ビートパルプの多用途展開。牛の長命連産やメタン削減飼料開発を実施。

3. 農業資材事業の成長

有機農業用資材の新商品開発・海外展開。てん菜由来の有用物質を活用した商品の拡販。

4. 食品事業の強化

BtoC市場での販売強化、国産ドライイーストの市場開拓、新機能製品の開発。

3 対処すべき課題

① 砂糖消費減少への対応

- ・消費者の低甘味嗜好や異性化糖などの代替甘味料増加により砂糖消費量が減少傾向。
- ・2026年10月までにてん菜糖の政策支援数量が64万トンから55万トンへ漸減される決定。

② てん菜作付面積の減少

- ・気候変動や病害虫対応、新品種導入による生産力維持が急務。
- ・生産者の栽培離れ進行により作付面積がさらに減少。省人・省力化技術で生産者所得向上が必要。

③ 経営環境の悪化

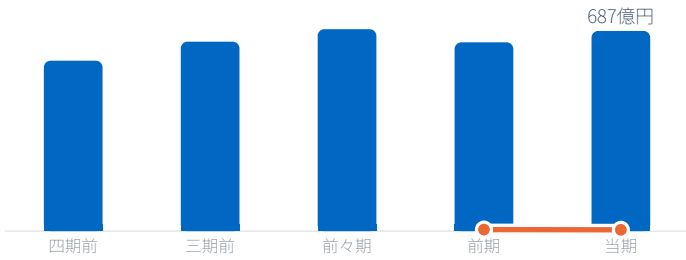
- ・燃料価格の高止まりと製造原価上昇により製造費が圧迫される状況が続く。
- ・2023年産てん菜の記録的な低糖分や肥料価格上昇が収益性を悪化させている。

面接で使えるポイント

- ・北海道の寒地農業振興と国内甘味資源自給率確保という社会的使命を担い…
- ・日甜アグリーン戦略により、てん菜産業への飛躍と持続可能な食料システム構築を目指す新しい経営方針を展開中。
- ・飼料事業のDFAIII海外展開やBtoC食品市場強化など、砂糖消費減少に対応した多角化戦略で収益体質改善に注力している。

証券コード 2108

業績の推移（売上＝棒 / 営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

暗記する数字3つ

連結売上高
687億円営業利益率
0.1%財務健康度
45点 / 100点

将来性 曇り時々雨 / 就活偏差値 51.8（当サイト算出の参考指標）

平均年収
670万円

食料品内 55位/120社

平均年齢
43.8歳

食料品内 20位/121社

平均勤続
18.9年

食料品内 9位/121社

女性管理職
0.9%

食料品内 102位/106社

男性育休
87.5%

食料品内 53位/92社

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース十一言

参考: 日本甜菜製糖(株)【2108】：決算情報

